

ウクライナの平和を願い、復興へ向けて 日本ポーランド協会関西センター主催の展示会

第2次世界大戦時のポーランドと破壊されたウクライナを比較する写真展「ワルシャワとマリウポリー廃墟の街、闘争の街、希望の街」を、2023年11月7日から17日までひょうご国際プラザ交流ギャラリーで開催。「ワルシャワの戦後復興のようにマリウポリーも復興できるよう」という願いのもと作られたパネル約20点を展示しました。

11月9日には日本ポーランド協会関西センター代表の藤井和夫さんと、ウクライナ研究会会長の岡部芳彦さんによるセミナーを実施しました。藤井さんはポーランドの戦後復興について、当時の歴史的背景を交えながら説明。昨年9月にもウクライナを訪問した岡部さんは現在のウクライナの状況を伝え、兵庫県にできる支援を訴えました。質疑応答では多くの質問が飛び交い、関心の高さが感じられました。



写真展の様子



左から岡部さんと藤井さん

いろいろな「やさしさ」を集めました！

ひょうご国際プラザ所蔵の書籍から、「やさしい」本を紹介します。



やさ日まんがJAPANガイド

やさしい日本語と楽しいまんがで日本を知る
(小川清美著 / IBCパブリッシング)
外国の人が日本の暮らしで困ったこと、
分からないことを、
漫画で分かりやすく説明しています。
日本語と英語で書いてあります。



パラパンマンマ

(イ・ジウン作・絵 / 申明浩、広松由希子訳 / ポプラ社)
小さなマシュマロンたちのくらす村に、
なぞの言葉をさげふ
生きものがやってきた。
さあどうする？



吾輩こそ猫である

(チェ・ジニョン著 / 中川里沙訳 / 実業之日本社)
人間って大変？
ほぼイラストなので、
気負わずどうぞ。
自分にもやさしくしよう。

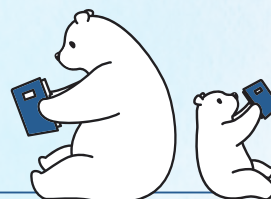


「サボる」防災で、生きる

キャンプで楽しく学ぶ、災害に備える力

(寒川一、寒川せつこ著 / 主婦と生活社)

日々の暮らしの中で、
災害にも使えるものを選ぶ、
使うことで、いざという時の
備えになります。



ひょうご国際プラザ

ひょうご国際プラザでは、毎月
テーマを決めて特別コーナーを
設置しています。お楽しみに！



開館時間等の
詳細はこちら▲

やさしい日本語 解答例

問題1: 実物を見せる ペットボトルはこれです。●非言語コミュニケーションの活用／～は～です
問題2: 明日は8時45分に来てください。●具体的な時間をはっきり伝える
問題3: 雨が降ります。イベントはありませんorイベントは中止です。●～は～が～ます／～は～です ●ジェスチャーもつけてみる



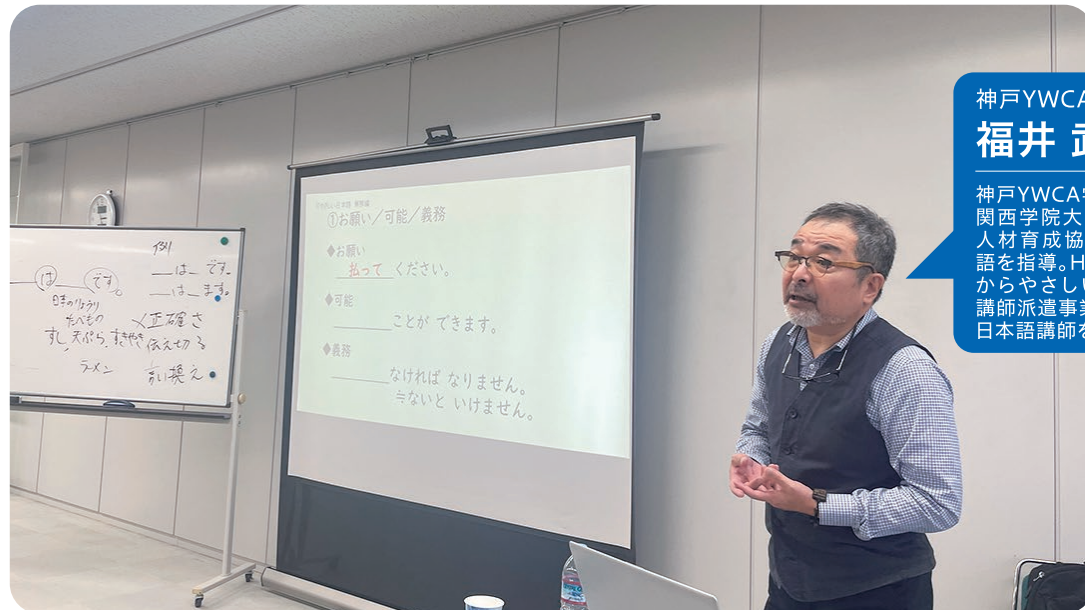
情報発信×多言語

もっと伝わるやさしい日本語



HIAは情報発信の **多言語化** に力を入れています！

兵庫県内の在留外国人数は12万7,090人（2023年6月末現在）と過去最高を記録し、情報発信の多言語化の重要性はますます高まっています。情報を発信する言語の一つとして、「やさしい日本語」があります。今回は、外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」について神戸YWCA学院の福井武司先生に解説していただきます。



神戸YWCA学院
福井 武司 先生

神戸YWCA学院をはじめ、関西学院大学や海外産業人材育成協会などで日本語を指導。HIAでは2016年からやさしい日本語普及講師派遣事業の講師、登録日本語講師を務める。

「やさしい日本語」の考え方が生まれた背景をご存じでしょうか。1995年1月に阪神・淡路大震災がありました。その際、被災地域に暮らしている外国人の人たちに必要な情報が届かなかったとされています。例えば「余震に注意」「避難場所に速やかに移動してください」と言っても多くの外国人には正しく、早く伝わらないことが想像できるかと思います。その反省から、やさしい日本語の考え方が生まれたのです。その後、地域で暮らす外国人が増加する中、やさしい日本語は災害発生時だけでなく、例えばゴミ捨てのルール、役所や病院の窓口での対応など、普段の生活の中でも必要なのではないかということで、広がりを見せています。

少し前までは、外国人とコミュニケーションをする際、私たち日本人が英語を使わないといけないという先入観のようなものが

あったかもしれません。ただ、現在日本で暮らす外国人は、英語が苦手な人が増え、ある程度の日本語は話せるという人が多くなっています。しかし、いくら日本語が話せるといっても、普段私たちが使っている日本語をそのまま使うとさすがに難しいので、日本語を使う私たちの方に日本語を分かりやすくしようとする配慮、工夫が必要になってきます。

右の図からも、受け手の外国人からもやさしい日本語に高いニーズがあることが見て取れます。

【外国人が希望する情報発信言語】

やさしい日本語
76%

英語
68%

日本語
22%

出典：文化庁「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」

では、私たちはどのような工夫をしていけばよいのでしょうか。
ここからはクイズ形式で「やさしい日本語」のポイントをご紹介します。

ポイント
1

非言語コミュニケーションの活用

問題A 「歯ブラシって何ですか」

外国人にこう聞かれたとき、皆さんはどう伝えますか？「棒の先に毛がたくさんついた歯をきれいにするもの」のように、歯ブラシを言葉そのもので説明しようとすると、伝わりにくいものです。そこで、言葉そのものより「非言語コミュニケーション」を大切にしてみましょう。

非言語
コミュニケーションの例
●ジェスチャー ●表情
●絵・写真・実物



解答例 **ジェスチャーを使って伝える**

ポイント
2

丁寧すぎる表現は避け、 「～は～です」の形を使う

問題B 「リーさんはどちらに住んでいらっしゃるんですか」

丁寧すぎる表現も伝わりにくいです。丁寧度を下げ、「リーさんはどこに住んでいますか」にすると伝わりやすくなります。また、さらに伝わりやすくするためには「～は～ですか」の形にしてみましょう。

例 「私は田中と申します」

- 「私は田中です」 ●「家は神戸です」
- 「仕事は日本語の先生です」

全て
「～は～です」

外国人が使う初級の日本語の教科書の第1課は必ずと言っていいほど、この「～は～です」の形から始まっています。つまり、この形が最も簡単な日本語の形と言えます。

解答例 「リーさんの家はどこですか」

ポイント
3

1つの文に1つの情報

問題C 「エレベーターに乗って、8階に行ったら、事務所があるので、そこで聞いてください」

文を4つに分け、「(あなたは)エレベーターに乗ります」というように「～は～ます」の形で話してみると伝わりやすくなります。ポイント2の「～は～です」にも言えることですが、この2つの形の利点は、1つの文に1つの情報しか入らないという点です。1つの文に4つある情報を、箇条書きのように並べていくとよいでしょう。

解答例 「エレベーターに乗ります。8階に行きます。事務所があります。事務所で聞いてください」

やさしい日本語の答えは
1つではありません。
頭を柔らかくして創意工夫を
してみましょう！



HIAの活動紹介

2023年11月16日

県立聴覚障害者情報センター主催 防災学習会2023

県立聴覚障害者情報センター主催の防災学習会2023（オンライン）に参加し、HIAからは、「外国人の方々を対象とした情報発信の取組」と題し、外国人が抱える災害情報に対する脆弱性と、その対策としての情報発信の多言語化について説明しました。その中で、「やさしい日本語」について取り上げたところ、「やさしい日本語について改めて考えさせられた」「外国人にやさしいということは、障害者にもやさしいということだと思った」と、感想がありました。

参加者は、各市町職員や全国の気象庁職員など100人を超え、HIAのほか、聴覚障害者情報センター、人と防災未来センターの職員が講演しました。さまざまな背景を持った人々が安全・安心に過ごせる社会の実現に向けて、多様な分野の機関が協調する必要性を再認識できた学習会でした。



オンライン配信会場の様子。
手話通訳者や要約筆記者等多くの人が携わっています

練習問題

問題1

「ペットボトルって、何ですか」と聞かれたとき、どう伝えますか。

ヒント 非言語コミュニケーションの活用

問題2

「明日はできるだけ早めに来てください」はどう言い換えますか。

ヒント 曖昧な表現は避ける

問題3

「(イベントは)雨が降った場合は、中止になります」はどう言い換えますか。

ヒント ～は～ます。／～は～です。

※解答例は
裏表紙

多文化共生の窓

生活に役立つ日本語を学びたい外国人県民を対象とした日本語講座と、市町・国際交流協会の担当者向け「地域日本語教育コーディネーター育成研修」を紹介します。

生活のための日本語講座を実施しました！

HIAでは毎年、生活のための日本語を学ぶ「すぐに役立つ日本語講座」を開講しています。参加者は日本語を学びたい外国人県民の皆さん、教室サポーターとして協力してくださる地域の学習支援者の皆さん、そして日本語の先生たちです。本年度は2023年9月に、延べ18日間実施。11人の外国人県民が参加しました。

講座では『できる?できた!! 暮らしのほんご』という教科書を使い、10の生活上の場面を学びます。「電車に乗る」というテーマの日には「この電車は〇〇駅にとまりますか」、「買い物する」

というテーマの日には「牛乳はどこですか」など、生活ですぐに役立つ日本語を学習しました。「普通電車と快速電車は同じ値段で乗れるのか!」「お肉のパックのあのシールは10%ディスカウントという意味だったのか!」など、支援者やクラスメイトと交流する中で生活に役立つ発見もたくさんありました。

集まった外国人県民の皆さんは出身も年齢もさまざまでしたが、18日間の集中講座を元気に積極的に、共に学び合いながら過ごしました。

① ルールを見てゴミを分別してみよう



② チラシの情報を読んでみよう



③ 電車の切符を買ってみよう



地域日本語教育コーディネーター育成研修を行いました！

地域日本語教育コーディネーターは、行政や国際交流協会、学校等の関係機関と連携し、地域で日本語教育を推進する要となる人のことです。その育成のために、HIAでは、市町・国際交流協会の方を対象に研修を行っています。

本年度は、2023年8月から12月にかけて全3回の研修を実施。とよなか国際交流協会の山野上隆史氏を講師にお迎えし、12の市町から16人の「日本語教室担当者」が集まりました。一口に担当者といっても、市町の職員、国際交流協会の役員等、立場はさまざまです。おのおのが現場の課題を持ち寄り、解決策等を議論しました。

同じ一つの課題でも立場によって見え方が違うことがありますが、「違い」を持った人たちの対話によって、多様な解決策が生み出される様子は圧巻で、それを講師の山野上氏が豊かな経験と見識で、実現可能な方向づけをしてくださいました。参加者はこの過程からコーディネートのコツを見つけていきます。

この研修も今年で5年目、ここで学ばれた多くの人が市町の日本語教育の推進に活躍されています。



まずは国の日本語教育施策について
知ることから



他のグループの発表から課題の
掘り下げ方を学ぶ



講師のアドバイスを
受ける皆さんの真剣な
まなざし

ひょうご国際交流団体連絡協議会 活動紹介

コミュニティ通訳ボランティア基礎研修を実施

2023年11月12日、当協議会の人材育成事業「コミュニティ通訳ボランティア基礎研修」を実施。今回は、愛知県立大学外国語学部 非常勤講師・医療通訳研究会(MEDINT)代表の村松紀子氏を講師に迎え、4年ぶりに対面開催しました。

本研修では、通訳現場での心構えや通訳者の倫理、メンタル管理などについて学習。研修後には交流会の時間を設け、普段話す機会がないボランティア同士で情報交換を行いました。参加者からは「ご自身の経験を交えて具体的に分かりやすく話していただきました」「教えていただいた知識とテクニックをこれからの通訳で生かします」といった感想が寄せられました。研修中は終始活発に意見が交わされ、大変有意義な時間となりました。



講義の様子



ボランティア同士で情報交換

設立10周年イベントを開催

当協議会は本年度で設立10周年を迎えました。そこで、「記念事業～オールひょうごで多文化共生社会実現を目指す～」を2024年1月23日に神戸市内で開催。一部オンラインでも配信しました。計24の市町国際交流協会等や8つの外国人支援団体が出席。協議会の10年の歩みを振り返り、各国際交流協会が地域での取り組み内容を紹介しました。

外国人住民を巻き込んだ地域づくり、協会の法人化や「日本語学習の場」におけるネットワークの拡大など、実務に直結する内容で、参加者は一様に聞き入っていました。外国人支援団体の皆さんの活動内容も紹介いただき、最後は交流会で締めくくりました。

今後も兵庫県では県・市町国際交流協会等や外国人支援団体が一丸となって、多文化共生の推進に取り組んでいきます。



構成団体の取り組み紹介



交流会の様子

訪日教育旅行 SHOWCASE

さまざまなかたちの国際交流

本年度、海外から教育旅行で兵庫県を訪れる皆さんが増え、その数はコロナ禍前を上回る勢いです。現在はオンラインと対面を組み合わせた国際交流が主流となり、その交流方法や目的は多様です。

音楽交流



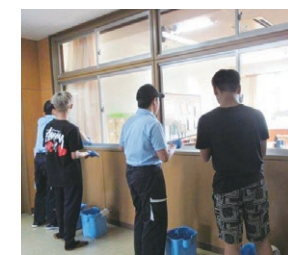
2023年6月に台湾の小学校が伊丹市立桜台小学校を訪れ、器楽演奏を通じて交流。「音楽は国境を超える」の言葉通り大きな感動を生みました。特に桜台小学校の学校・地域・保護者の皆さんの連携は素晴らしいものでした。

教育視察



2023年11月に韓国の保育園の先生方が尼崎市の汐江ふたば保育園を訪問しました。日本の保育制度や労働環境に関するヒアリングや施設見学をされ、また園児との触れ合いを通じて充実した時間を過ごしました。

特別支援学校の交流



2023年10月に台湾の高校が県立阪神昆陽高等学校と阪神昆陽特別支援学校を訪れました。オンラインで築いた3校の友好関係が今回の対面交流と姉妹校提携へとつながりました。授業体験の中で特別支援学校の生徒が清掃活動の手本を示し、台湾の生徒がそれをまねて真摯に窓ふきに取り組む姿に交流の広がりを感じました。

番外編 韓国プロモーション

関西5府県連携教育旅行誘致事業の取り組みで、2023年9月に韓国全羅南道で訪日教育旅行セミナーを行いました。ここ数年はオンラインで各国に向けプロモーションを実施していましたが、コロナ禍以降、初の対面でのセミナーとなりました。関西の魅力発信とともに兵庫県の教育施設や学校交流の取り組みをアピールし、今後のさらなる交流の拡大を目指しています。



SDGsセミナー

「コーヒーから考えるSDGs」を開催しました

2023年10月28日に「JICA関西秋祭り」のイベントの一つとして、SDGsセミナー「コーヒーから考えるSDGs」を実施しました。当日は好天に恵まれ、家族連れやSDGsに関心のある人を中心に90人余りの参加者が集まりました。

講師としてUCCホールディングス株式会社サステナビリティ推進室係長の願能千瑛氏^{がんのうち え}をお招きし、コーヒーでつながる国際交流活動やSDGsの基本情報、コーヒー産業の課題、UCCグループが取り組むサステナビリティ活動などについて、ミニクイズやビデオを交えながら分かりやすくお話しいただきました。特に、家庭で楽しめるおいしいドリップコーヒーの入れ方や、抽出後のコーヒー粉をごみとして捨てずに再利用する方法など、毎日の生活に役立つヒントや環境に優しい暮らし方のアドバイスも頂きました。



活発な質疑応答

参加者からは「コーヒーについての知識と途上国への支援活動を知る機会となった」「幅広いトピックで話が聞けて良かった」「購入する時にはサステナブルなコーヒーの調達を意識しようと思う」などの感想が寄せられました。日頃楽しんでいるコーヒーについて深く知るとともに、豊かな生活を未来も続けるために、今私たちは何をしなければいけないかを考える良い機会となりました。

UCCグループは次世代教育の取り組みとして、小学生から大学生に向けてSDGsオンラインセミナーを実施しています。詳細はこちらのQRコードからご覧いただけます。



ミニクイズの様子

香港の今とこれからを知る セミナーを実施



フォン所長の
熱弁ぶり



山谷所長の
丁寧な発表

2023年10月20日、当協会のあるIHDセンターに香港貿易発展局大阪事務所所長のリッキー・フォン氏、兵庫県香港経済交流事務所所長の山谷公男氏をお迎えして、「アジアのハブとしての香港

の今、そしてこれから」と題するセミナーを開催しました。第1部ではフォン所長がデータや図表を交えながら香港の現状と未来について、第2部では山谷所長が事務所の活動や現地での生活体験をもとに香港での日々の様子について、それぞれ熱のこもった発表をされました。

会場に詰め掛けたビジネス関係者を中心とする64人の参加者からは「メディアでは報道されない香港のありのままの姿とこれからを知ることができた」など、喜びの声が多く寄せられました。当協会にとっても、ひょうご・神戸国際ビジネススクエア(ひょうご海外ビジネスセンター等)や経済団体、海外事務所と連携した新たな試みとなり、今後に期待の持てるセミナーとなりました。



会場からの興味津々な質問

トライやる・ウィークで中学生が 国際交流の仕事体験！

2023年11月6日から10日までの5日間、「トライやる・ウィーク※」で神戸市内の3つの中学校から中学2年生3人を受け入れました。

生徒たちは、外国人県民インフォメーションセンター訪問、事務所内での電話応対体験、オーストラリア出身の国際交流員との英語トーク、ブラジルとのオンライン交流会、ひょうご国際プラザ(図書館)の開館準備作業など、たくさんのプログラムに取り組みました。

期間中に行った「僕・私の行きたい国」についてのリサーチワークでは、自分が将来行きたい国をインターネットなどで調べたり、その国に滞在経験のある職員にインタビューしたりしながら素敵なポスターを作成。最終日には素晴らしい成果発表をしてくれました。

この5日間で得た経験を、ぜひ将来に生かしてほしいと思います。

※中学生による地域での職業体験週間



CIRと英語トーク



電話応対体験



完成したポスター

海外事務所だより

兵庫県とワシントン州の姉妹提携60周年記念事業

ワシントン州との姉妹提携60周年記念事業等のため、2023年9月に齋藤元彦兵庫県知事や議会訪問団等が訪米。同州にて、経済、文化、観光、教育等の分野で協力していくための協議や共同声明調印式などを実施したほか、新西宮ヨットハーバーの国際発信力強化に向けたマリナー間の交流協議、スタートアップ関連の意見交換等を行いました。

また、この訪米に合わせて、「ひょうごフィールドパビリオン」

への誘客促進を図るため、ワシントン州シアトル、カリフォルニア州ロサンゼルスで、インバウンドトッププロモーションを実施しました。

今回の訪米によって、兵庫県とワシントン州をはじめとした米州地域の交流がさらに深まることが期待されます。これからも現地事務所として、さまざまな分野における国際交流活動を実施・支援していきます。(兵庫県ワシントン州事務所長 池上卓久)



共同声明調印式



インバウンドトッププロモーション(シアトル)



姉妹マリナー提携再締結式

みて！

よんで！

国際交流員

国際交流員(CIR)と客家料理を作ろう！

2023年12月2日、「国際交流員(CIR)と客家料理を作ろう！」を開催しました。客家料理とは、中国の広東省・江西省・福建省、香港、台湾、マレーシアなどに住む客家人の郷土料理です。

今回は客家出身の国際交流員の李霞さんと客家の代表的な料理「卵餃子スープ」を作りました。参加者は中国料理に興味がある人や中国語を勉強している人などが多く、同じグループの人と楽しそうに料理をしていたのが印象的でした。

ここ数年、コロナ禍でさまざまなイベントが中止となり、HIAでも、人が触れ合うイベントの開催は4年ぶりでした。それもあってか、参加者からは「またこのようなイベントを開催してほしい」という声を多く頂きました。今後もさらに皆さんと楽しめる国際交流イベントを開催していきたいと思います。



調理の様子



卵餃子スープ

Welcome our new CIR! 新しい国際交流員が着任しました

Hello!

国際交流員のイーサン・シュリーと申します。出身は米国オハイオ州シンシナティ市ですが、この5年間はユタ州に住んでいました。家族は6人で、私は長男です。趣味はたくさんありますが、特にランニング、写真撮影、読書、語学が好きです。2023年の8月に兵庫県に住み始めてから、毎日日本の魅力を感じています。今回が初めての日本での生活なので、兵庫県の国際交流員として日本に滞在している間、多くの人と交流し、日本とアメリカ、そして日本人と私自身の共通点を発見できればと思います。I look forward to meeting you!



イーサン・シュリーさん